

台木の違いによりナシ「幸水」の 胴枯性病害の発生が異なる

中北部地域のナシ産地では、ナシ「幸水」の胴枯性病害の発生が問題となっています。その発生程度は台木によって異なり、ヤマナシ台、二十世紀中間台、ホクシマメナシ台の順に軽いことがわかりました。

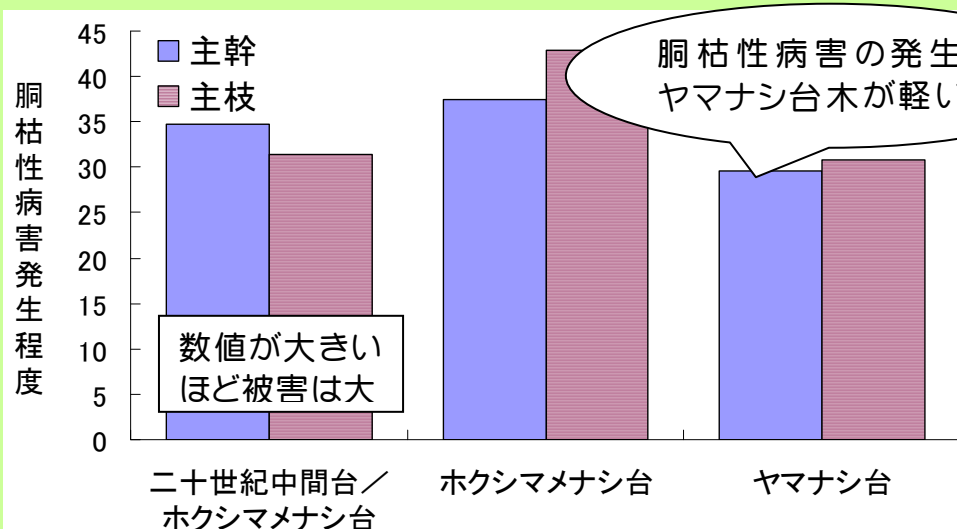
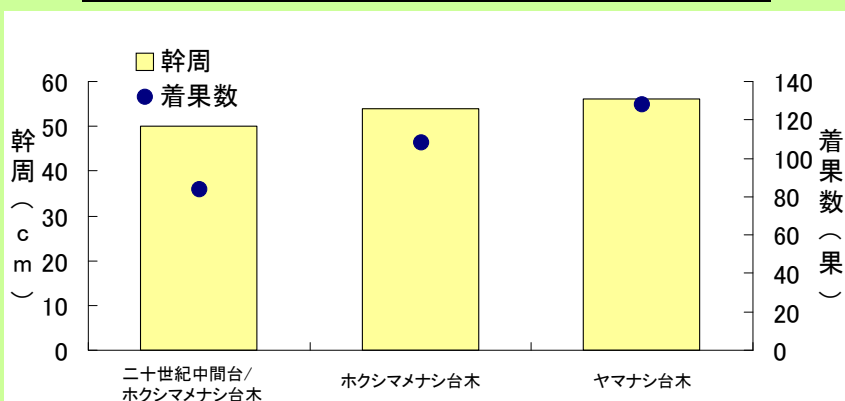


図1 台木の違いと胴枯性病害の発生程度 (品種: 幸水)

表1 台木の違いと果実重・糖含量

台木	中間台木	果実重 (g)	糖度 (度)
ホクシマメナシ	二十世紀	386	11.9
ホクシマメナシ	-	413	12.3
ヤマナシ	-	389	11.8

○ホクシマメナシ台木は、他の台木に比べて果実重と糖度がやや優れる



○ヤマナシ台木は、他の台木に比べて幹周と着果数は、太く、多い。

胴枯性病害が問題となる県北部地域ではヤマナシ台を用いることが好ましい。